

コード No. 11022

**Anti-Human  
CEA (2C3) Mouse IgG MoAb**

容量 : 1 mL

はじめに : がん胎児性抗原(carcinoembryonic antigen: CEA)は、1965年 Gold らによりヒト大腸がん組織および胎児腸管に存在するがん特異抗原として報告されましたが、後に carcinoembryonic な性格は否定されています。がんのみならず一部の良性疾患でも血中に増量しさらに成人正常組織にも存在しますが、多くのがんで CEA の産生がみられ、また腫瘍の消長が血中値の変動に反映されることなどからがんの診断および治療のモニターに最も広く利用されています。CEA は、分子量約 18 万の糖タンパクで電気泳動上、 $\beta$  グロブリン域に幅の広いバンドとして泳動されます。CEA の精製標品の分析値は、かなり差異がありますがこれは、糖部分の多様性によるもので糖含有量は 50~60 %です。CEA のタンパク質部分は一定で約 600 個のアミノ酸よりなっています。また CEA は 1 分子中に 24~26 個の糖鎖が結合しています。CEA には肺、脾臓より抽出された NCA (non-specific cross reacting antigen)及び胎児便中の NCA-2、正常成人糞便中の NFA-1 (normal fecal antigen-1)、NFA-2 など、CEA 抗血清と交叉反応性を有する CEA 関連抗原の存在が知られています。

免疫抗原 : Human CEA

起源 : マウス-マウス ハイブリドーマ  
(X63-Ag8-653×BALB/C マウス脾臓細胞、培養上清由来)

クローン名 : 2C3

サブクラス : IgG<sub>2a</sub>

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加

保存方法及び安定性 : 2~8 °C 保存 5 年間安定  
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 200 倍希釈にて使用可能  
(ホルマリン固定, パラフィン切片)

特異性 : NCA と交差